

—自然をまとう「庭」のようなまち—

多治見駅南地区第一種市街地再開発事業に伴うランドスケープ・デザイン 2022年

“A Town Like a Garden”, Landscape Design for Tajimi Station South Entrance Class 1 Urban Redevelopment Project, Tajimi City, Gifu Pref.

岡田 憲久 OKADA Norihisa



写真1 再開発地全風景。舗装や植物など、ランドスケープの素材やデザインが統一感を与えている。●



写真2 再開発を南東角から見る。県道歩道、再開発地内歩道にもアオダモなど共通の街路樹を選定。建築の壁面には美濃焼タイルが貼られている。●



写真3 夜景。照明が町を暖かく照らす。●



写真4 空撮。敷地北側にJR中央線線路。●

緑あふれる山々に囲まれ、美濃焼と総称される陶磁器産業で栄えた町、また昨今では日本一暑い町としても有名な岐阜県多治見市では、主要駅であるJR多治見駅周辺をコンパクトシティの核とする都市整備が進められており、駅北では2016年に多治見駅北地区土地区画整理事業の一環で大規模な水の流れを組み込んだ虎渓用水広場が整備された。2015年に建設された市役所駅北庁舎屋上にも緑が見え、民間では駅南に新築された信用金庫本店にも公共に開かれた緑地広場が設えられている。このように多治見駅南北で緑を意識した新たな市街地の景が形成されつつある。

こうした流れの中、多治見駅南地区第一種市街地再開発事業として約2haの敷地にJR多治見駅とペDESTリアンデッキで直結した商業業務棟、ホテル棟、駐車場棟、住宅棟が計画された。これに伴うランドスケープ・デザインを、駅南再開発の全体設計者である株式会社大建設より依頼を受け、2017年3月から基本設計、実施設計、意匠監理を行い、2022年11月に竣工を迎えた。同時に進行した交通広場及びペDESTリアンデッキ、岐阜県道歩道、多治見駅前交番外構も発注者がそれぞれ異なる中、ランドスケープ設計を行いデザインを統一させて同じ空間となるよう努めた。

### 全体コンセプト 自然をまとう「庭」のようなまち

自然をまとう「庭」のようなまち、というコンセプトのもとランドスケープ・デザインを行った。「自然をまとう」の中心は緑と土である。異なる人工的な機能の集合体である再開発地全体を、生き物である緑で包み、生命・緑があふれることを目指した。また再開発地内の動線は「通り庭」ともなるよう舗装材や緑地でつなげた。

#### テーマその1：緑

- ・全体 再開発地は三角形の敷地形状をしており、施設配置が雁行する中で自ずと生まれる余白を緑地に当てた。
- ・北側のJR東海の敷地と接する面が多治見駅ホームから見た際に裏と感じないように、わずかな敷地にも緑の配置を心掛けた。
- ・商業業務棟「プラティ多治見」の2階、3階屋上庭園では、建築の構造的な制限のある中でより深い土壌厚を確保することに苦慮した。
- ・地域の在来種に加えて耐暑性のある樹木も選び、雑木林の風情が建築環境を包み、あふれることを目指した。樹木は植樹された場で環境に適応して生長できるように、大きな木を選ぶことは避けた。

#### テーマその2：土

- 多治見が焼き物の町であることを訪れた人々に感じられるよう、焼き物をランドスケープ・デザインのポイントに用いた。
- ・駅からの玄関口となるペDESTリアンデッキに長尺の陶板を敷いた。
- ・再開発の各場所に置かれたベンチには座面両端に織部釉の大判タイルを設置。
- ・3階屋上庭園の中心的な景色となる水景の陶板は地元の陶芸作家に依頼。多治見の焼き物が工業製品から作家物まで幅広い事を示した。
- ・焼き物のリサイクル材やタイルメーカーの余剰生産品なども利用。



写真5 畑で自然樹形の木を選ぶ。



写真6 植栽工事中。

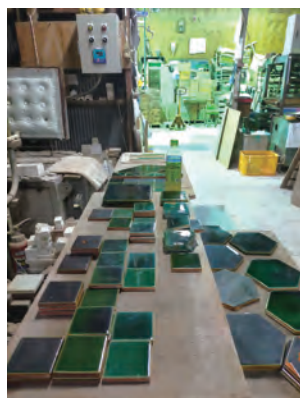


写真7 工場にて織部釉の検討。



写真8 2階壁面スクリーンのイメージ元となった工場内の風景。



写真9 商業業務棟を交通広場越しに見たところ。事業区画が異なっても舗装のストライプがつながる。太いストライプ部分に再生セラミック材を使用。●



写真10 交通広場をまたいでペデストリアンデッキが駅と施設をつなぐ。●



写真11 交通広場の高木はカツラを選択。足元にはアガパンサスと斑入りヤブラン。



写真12 ペデの舗装。右側に長尺の陶板。



写真13 県道歩道にも人が滞留できるベンチを設けた。



写真14 南東角の歩道上のベンチ。アオダモの株立ちを囲む。

## ○商業業務棟（プラティ多治見）2階「にぎわいの広場」

2階屋上庭園はイベント開催が可能な動の空間としてほしいとの要望に応え、イベントステージを中心としたテラス広場をデザインした。2階床から立ち上がる建物の曲線の壁面は白いレンガを積み重ねたスクリーンで、工場出荷を待つ焼き物たちがパレットに積み重ねられた景色から発想を得て建築設計と共同でデザインしたものであり、焼き物の町多治見としてのメッセージ性のある景色を生み出すことができた。また床は黒、グレー、白とグラデーションで変化する六角形タイルを敷き詰めた。



写真15 ペDESTリアンデッキから屋上庭園に入る。植栽樹の立ち上がりがベンチとなっている。右奥にはイベント用のデッキスペース。●



写真16 2階庭園を見下ろす。床には白～黒の六角形タイルが敷かれている。



写真17 渡り廊下棟にも植栽スペースを設けた。●

写真18 ベンチの立ち上がりはコンクリート洗い仕上げ。



写真19 白いアガパンサスが咲く。奥には3階屋上庭園への階段。

### ○商業業務棟（プラティ多治見）3階「うるおいの広場」

多治見の町と町を囲う山々が見渡せる3階屋上庭園は静の空間であり、デッキテラスに水景の水音が静かに響く。植栽地の周りには緑陰で休めるよう多くのベンチを設置し、来訪者が非日常の空間で静かに寛げることを願った。美濃焼の織部釉をイメージした緑のタイルがベンチの両脇を占める。この緑のタイルを再開発全体のベンチに共通したデザインとした。水景の縁取りには多治見の陶芸作家、加藤亮太郎氏による志野と織部の焼き物が配された。エスカレーター前の半円形の床は独特の味わいを持つタイルのモザイク舗装とした。



写真20 植栽地の周囲をベンチとして立ち上げることで土壌厚をなんとか確保。将来は少しでも木陰をつくってほしいと願う。奥にはガラスの庇。●



写真21 神戸峰男氏によるブロンズ像。



写真22 扇形の平面を植栽地でゾーニング。中心には水景施設。



写真23 ●



写真24



写真25

写真23-25 多治見の古刹永保寺開山の夢窓疎石による漢詩「仁人自是愛山静（仁人は自ら山は静なるを愛す）智者天然楽水清（智者は天然に水の清きを楽しむ）」が描かれた水景の陶板。



写真26 この場のタイルは職人が余った釉薬で遊びながら制作したもの。無造作に混ざり合った色合いが面白い。

## ○住宅棟エントランスの庭

奥行き約 20mの住宅棟アプローチをモダンな日本庭園にできないかと設計を試みた。郡上八幡の北、大和町から採れる安山岩の表面をデザイン的に切り落とし磨いた上で、配石した。株立ちのイロハモミジが緑のトンネルを作り足元には種々の下草、緑陰にモダンな石組みが見え隠れする。



写真 27 奥行き 20mのアプローチ。サインも石組みの一つとした。



写真 30 ロビーに面した中庭。



写真 28 モミジの木立をくぐる。



写真 29 切り落としたデザインの景石。



写真 31 ロビーから見る中庭。

## ○こもれびの広場

再開発地西端の約 1,000 m<sup>2</sup>の三角形の緑地である。住宅棟で暮らす人々の屋外広場であり、地域の人たちの広場ともなる。JR 東海の敷地との境を雑木林の法面とし、法尻と小さな芝生広場の境を緩やかなカーブを描いた園路にした。この園路の舗装には多治見のタイル組合から提供されたタイルをランダムに散らした。



写真 32 入口のタイルは密に、そしてランダムに散っていく。



上写真 33、下写真 34 様々なタイル。



写真 35 最上階から見た広場。

## 終わりに

当再開発地において種々の異なる施設とステークホルダーをつなぎ、統一感を演出するという意味においてランドスケープ設計は大きな役割を果たせたと感じる。具体的には植栽樹種、舗装の素材とデザイン、照明、ベンチのデザインなどに共通性をもたせた。しかしながら外構予算が再開発建設費の約 3% しかない中で苦勞した結果であり、ランドスケープ・デザインの社会的重要性に対する認識の低さに忸怩たる思いが残る。この非有機的集合体である都市の構築物に持ち込んだ生命としての緑、また人の手わざが、これから命の輝きをみなぎらせ、都市の中心部において人々の安らぎの場となって育ててもらえることを強く望むものである。

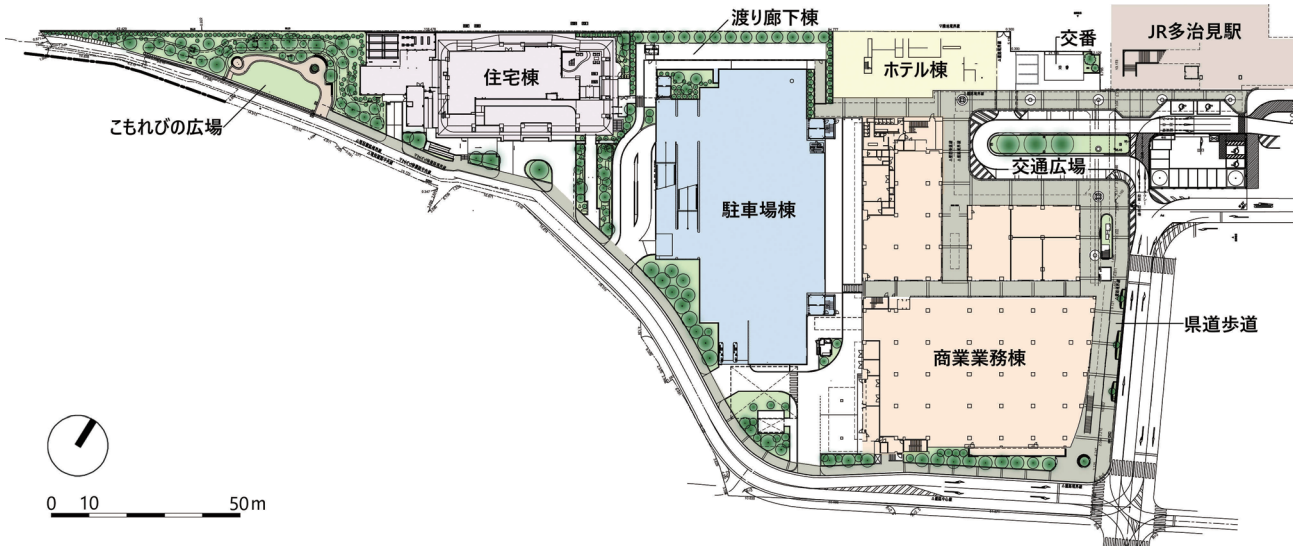


図1 平面図 地上階

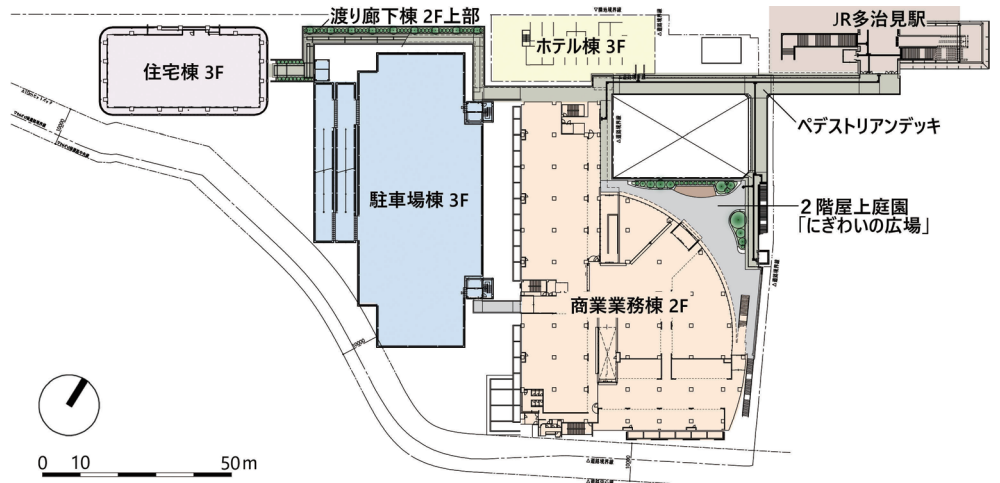


図2 平面図 2階・3階

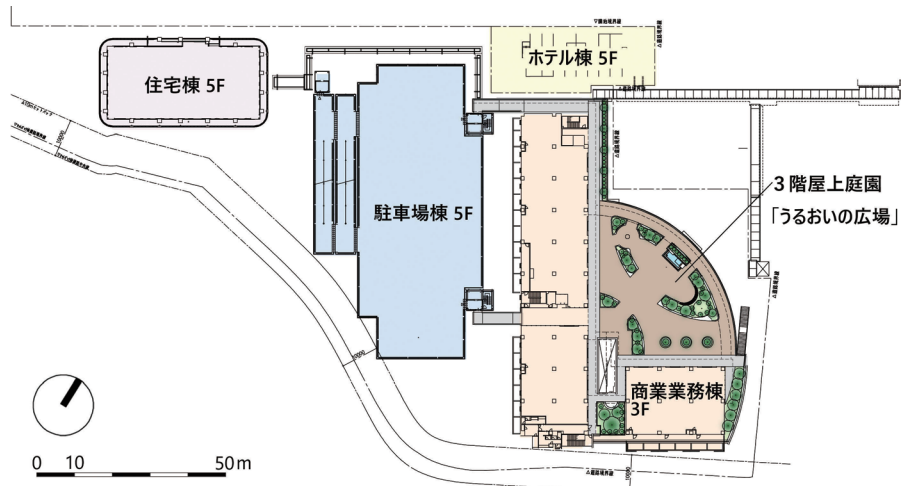


図3 平面図 3階・5階

作品データ

所在地： 岐阜県多治見市  
 発注者： 多治見駅南地区市街地再開発組合  
 設計・監理：(株)大建設計名古屋事務所  
 ※多治見駅前広場及びペDESTリアンデッキ 発注者：東海旅客鉄道(株)  
 設計・監理：JR 東海コンサルタンツ(株)  
 ※県道歩道改修 事業者：多治見市、土木設計：大日コンサルタント(株)  
 ※多治見駅前交番 発注者：岐阜県警、設計・監理：(株)大建設計

ランドスケープ設計： 岡田憲久、田井洋子（景観設計室タブラ・ラサ）、大石浩（ES デザイン）  
 施工：(株)奥村組、(株)岐阜造園（造園）  
 規模・竣工： 約2ha・2022年

写真(C)：●印は多治見駅南地区市街地再開発組合、その他すべて景観設計室タブラ・ラサ